

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎( )		
所在地	大分県由布市挾間町古野254番地3		
自己評価作成日	平成23年2月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 居室の窓から、高崎、鶴見、由布の山々が眺められ法人の病院や道を隔てて、医大病院があり、健康面で安心して生活ができています。
2 隣接した法人施設の行事に参加したり、定期的に外出行事を計画し居室に閉じこもらない様な声かけ、外出することが馴染んでくる支援をしている。
3 スタッフが様々なアイデアをだし、利用者から昔の習慣、生活を教わり、男性職員は、おにぎりの作り方、草花の名前を習ったりして家庭的で和やかな日々を過ごす取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の老人会や小学校の運動会、祭りの食事会への参加があり、ご近所と馴染みの関係ができています。
・地域と防災互助協定を結び、地域の防災訓練に参加し、グループホームへの協力もお願いして相互に助け合う体制ができています。
・医療と連携しており毎日看護師がバイタルをチェックして医師に報告し、状態に応じて隣接法人の医師が対応している。医師と家族の会話も密である。
・利用者の趣味を活かした生活の場である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に上げている</p>	<p>職員で話し合い、地域のふれあいや関係作りを大切にしたいという思いを込めた理念となっている。</p>	<p>家庭的で地域に密着したホームづくりを目指しており、その理念を職員間で共有している。また、地域活動など実践に移している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>法人が自治会、老人会に加入し、地域との交流を図っている。また、ホーム周辺を散歩コースとして通る人や農作業をしている地域の方と話したり、挨拶をするよう心掛けている。</p>	<p>地域の祭り、小学校や保育園の運動会などに招待され、参加している。地区公民館の老人会活動に参加して楽しむ人や、法人内に集う人と一緒に趣味の活動を行う人もいる。地域を挙げての防災活動にも参加して、互助活動を行っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし、地域の高齢者の暮らしについて情報収集を行い、その内容を検討し、可能なものは、還元、実践している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に一回開催し、利用者と家族の代表、市の担当者、地域の代表者(自治区長または民生児童委員)の参加により事故防止や苦情解決について話し合っている。その意見や、要望等をもとにホームとしてのケアに活かそうとしている。</p>	<p>同法人の2つのグループホームが、同日に順次開催する形で定期的開催している。生活情報や支援について話し合い、地域の防災活動も取り入れ、各委員の立場で意見を出している。またホームからの依頼なども行っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者へ運営上のことや困難事例発生の際に相談を行い指導を受けている。また、グループホームとしても市役所へ出向き具体的なアドバイスを受け、質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者が積極的に声掛けをしてくれ、制度や手続きなどについて、相談をし、アドバイスを受けている。困難なケースに対しても、相談して、質の向上に向け取り組んでいる。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行う必要がなく行っていない。出来る限り自由に安全に安心して生活が送れるよう、会議などを行っている。</p>	<p>それぞれ自由に過ごすことができ、気のあった人は部屋を歩き来して楽しんでいる。身体拘束をしないケアのための研修も、定期的に行なっている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待だけでなく、言葉の虐待も見逃してはいけない問題である。そのことについては、研修もおこなっているが、常時、全法人職員に強く指導を行っている。</p>		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ事例はないが、内部研修により認識を深め、必要な場合にはいつでも支援できるような体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から契約時まで丁寧な相談を行い、個々の立場に立ってわかりやすく説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見、要望、不満、苦情について気軽に引き出せるように努めている。また、年2回の家族会を設けている。	家族にアンケートを行い意見を出しやすい工夫をしている。利用者は、思っていることを自発的に話して、その要望をケアに反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議及びミーティング等を開催している。全職員が「報告」「連絡」「相談」し合える関係作り、話しのできる関係作りを心がけている、	行事やレクリエーションでやりたいことや、ケアの具体的な方法など、会議や引継ぎで意見を出し合い実践に向けて取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性について話し合っている。また職員それぞれの適正を生かした役割分担をし得意な分野を伸ばしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は法人での研修が直ぐに実施され、段階に応じた研修に参加している。学習会が毎月一回開かれ、外部研修の内容を伝達発表し、職員間で共有している。また、先輩職員が内部研修でレクチャーできる機会も設けられている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入しており、三ヶ月に一回の連絡会に、職員を派遣し、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得よう努力している。入居時の相談時間はなるべく時間を多くとり、不安内容の明確化を図れるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が施設を見学し、納得のいく入居の運びとなっている。事業所の特徴の取り組み内容の説明には時間をかけ、入居者及び家族の理解を得ることを大切にしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安、悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービスの内容等についても相談し説明をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切にしながら、人生の先輩であることを忘れず尊敬の気持で接しています。また、日常生活の中でいつも新たな発見をすることでさりげない支援に努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いている。また行事などをお知らせをし、共に楽しんでいただけるよう配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全ての職員は利用者様の知人、友人との関係を理解して良好なる関係が継続できるように支援している。	老人会や、デイケアの趣味の教室に参加して、馴染みの方と交流している。墓参りや美容院など、行きたい所に出かけたり、また友人に電話をかけるなどして、関係を継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心を許せる関係を築き、共に支えあい、助け合えるよう支援している。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族より、お世話になったことのお礼など、立ち寄っていただきます。そのときに、相談事があれば、気軽に連絡等していただきたいとお伝えすることとしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様より、話を聞いたり、生活の中で、本人とコミュニケーションを図りながら把握に努め、それをもとに、フェイスシートに記入している。また、意向の把握が困難な利用者に対しては、日頃の支援の中で反応や表情から探り出している。	認知症の人のためのアセスメント・センター方式を活用して、趣味・好きなこと・生活歴・家族の思い・本人がどのように過したいかなどについて聞き取り、日頃どのような時に嬉しそうにしているかを観察して、気持ちも汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、情報収集に努め、その人に合った生活が送れるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで把握に努めており、生活の中で入居者さんが出来ることはやっていただくように、いつも一人ひとりの心身の状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで職員、利用者、家族の意向を取り入れ介護計画を作成している。	家族と事前に連絡をとり、担当医・ケアマネ・全職員・本人でケア会議を行っている。また、担当職員が毎月末にモニタリングして、状態に対応した、その人らしさが活かされるプランである。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、介護計画に沿った実践、結果を記入している。また、その情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所と連携をとり支援している。また、各家族との連絡も都度行っている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察、地域との協力も大切にしている。また新聞販売店が協力的に支援してくれる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科の医師が随時ホームに来て利用者の安心と信頼を得ている。入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、家族または職員が同行して受診したり、ホームの協力医療機関の定期的な診察や隣接した大学病院の受診を受けている利用者もいる。	母体の病院がすでにかかりつけ医の人が多く、毎朝看護師がバイタルチェックをし、医師に報告、状態により即対応できる体制となっている。また、専門医療も希望や病状により受診し、家族・医師・職員で情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは医療法人で運営されているため、診療所の看護師が常に健康管理につとめている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり迅速な対応が可能である。入院先の医療機関の主治医と連絡を密にとり、早期退院を支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状が悪化した場合やターミナル期についてなどその都度、ご家族の意向や今後の方向性、意思などを医師を交えて話し合っている。また、チームで今後についての話し合いをし、支援に取り組んでいる。	重度化した時のホームとしての支援の内容を分りやすく文書化して話し合い、家族も同意をしている。ターミナルケアの個別計画書も随時提示し、支援機関も選べるなど、家族としての要望が活かされる仕組みとなっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や自己発生時の備えとしてマニュアルを備え、随時対応できるように努めている。また勉強会において検討している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治区と防災協定を結んでおり、災害の発生した時は協力が得られるようになっていて、避難訓練も定期的に速やかに非難できるようマニュアルも用意して取り組んでいる。また、食品の備蓄は契約済みで直ぐに運搬できるよう準備している。	地域全体での防災訓練があり、ホームとしても参加している。自治区との防災協定も結び、支えあう関係ができています。居室が1階から3階にまたがり、機密性が高いこともあり、特に入念に、夜間を想定した訓練や、また避難経路・誘導方法の確認を含めた訓練が実践がされている。	

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりを尊重して、優しい言葉掛けをしており、接し方もプライドに配慮した対応をしている。書類の取扱いについても個人情報について学習し、取扱いに注意を払っている。	定期的な研修が計画的に実施されており、名前の呼び方や接し方を具体的に学んでいる。それが、トイレ誘導の際の言葉かけや、一人ひとりの意思の尊重に活かされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者それぞれに合わせた言葉かけや誘導を行い本人が納得できるような説明をこころがけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な生活リズムはあるが、体調や気分により自室で過ごしている人や、日向ぼっこを楽しむなど自分で好きなように過ごしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様、利用者様の希望により、ご家族様と一緒に行き慣れた店に行くこともある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や味付け片づけとできることをして、職員と同じテーブルで食べて、味付けや材料、季節の話題など家族のように話をし、ゆったりと団楽をしている。また、利用者の食べたい物や好きな物の把握もして献立に取り入れるよう配慮もみられる。	毎月給食委員会を開き、好きなものや食事内容などを検討している。おかず類は法人内の老人保健施設より運び、ご飯と汁物やおやつはグループホームで作ることで、香りや調理の音を楽しんでいる。職員は、検食や弁当と一緒に食べて、親子のように会話を楽しむなど、家庭的な雰囲気である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養、水分摂取量の目安を基に一人ひとりの状況を記録している。献立は好みなど取り入れ同一法人の老人保健施設の栄養士が作成し、バランスのとれたメニューである。また、嚥下機能に応じて刻みや柔らかい食事への配慮もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら、口腔ケアの支援を行っている。義歯の手入れも合わせて行っている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導にてトイレ内での自然な排泄が出来る様に支援している。	自分で排泄ができる人が多く、できる力を維持できるように支援している。声かけの必要な人は、パターンを把握して、声かけ誘導し、トイレで自立した排泄を促している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりのペースに合わせた軽度の運動や体操などを行い、身体を動かす運動をおこなっている。体を動かすのが困難な場合は、医師と話し合い薬などで対応している。また、毎日の排泄チェックを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の要望に応じていつでも入浴が可能である。汚れが気になった時や失禁など場合にに応じて入浴を実施し、体調や気持の変化に応じて清拭に変更したりと、清潔保持を保っている。	定期的な入浴を基礎として、要望により毎日入浴することも可能である。毎日足浴を行い清潔を保持する人や、シャワー浴なども適宜実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活ペースができており、ゆったりと居心地のよい居場所が確保されている。また、昼夜逆転を防止するため、日中は居間に誘うように声掛けをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様全員の服薬情報を周知しており、服薬の際にチェック表の記入を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴、楽しみ事を把握し、個々の身体状況に応じて残存能力を活かした役割を持つ事ができる様支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、近所を散歩して戸外に出よう配慮している。買い物も生活用品など近くのスーパーに出かけて、自分から行きたいと希望を引き出すよう工夫している。また、定期的な外出行事も実施して生活に外出する事がなっている。個別においては、ご家族様と外出される機会を作り、行事としては花見や遠足等外出の場を設けています。	隣接のデイケアセンターや近くのスーパー、戸外の庭先など日常的に出かけている。寒い季節には陽だまりでひなたぼっこ・日光浴をして、外の景色を眺め楽しんでいる。暖かい季節には、近隣へ散歩に出かけている。	

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物に出かけた時は職員が見守り、支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>現状として手紙は扱っていないが要望があれば対応が可能である。自分で電話を掛けることが可能な方は、自分で電話を使用していただいている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>近所から頂いた季節の花を飾り、目で楽しみ香りで感じる心配りが見られる。また、お雛様の飾りなど節目の行事や催しなどを通してゆったりと昔馴染みの生活の工夫をし居心地良く過ごしている。</p>	<p>古銭や昔のポスター、馴染みの人や行事の写真、趣味のコーナーなど設けている。季節の花を花瓶に挿し、行事や節句などにちなんだ飾りで落ち着ける工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには椅子、テーブル等を配置し過ごしやすいようにしている。またソファ等を置いて自由に過ごしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>アパート形式で各部屋には流し台やトイレなどがあり、仏壇、椅子、洋服掛けなど家庭での馴染みの物の持ち込みもあり、その人の個性や趣味を活かした居心地の良い空間である。また、自分の下着をベランダに干してあり家庭的である。</p>	<p>一人ひとり自分らしい居室となっており、鉢植えの花や仏壇、好きな本など置いている。ラジオやテレビを友人と一緒に楽しんでいる人もいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、要所には手すりが取り付けられている。</p>		